

実践『ペルソナ』通信 (No. 100)

「財布」に関する調査

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、女子大学生の「財布」についてアンケート調査を実施しました。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計学科（担当：竹内光悦）」のゼミ生を中心に組織され、実践女子大学生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を研究する研究会です。

はじめに

女子大生が日ごろから使っている必需品として「財布」があります。財布は長い間使うものであるため、おしゃれにそして自分らしく持ち運びたいものです。そこで今回の調査では、イマドキの女子大生が所持している「財布」について、調べていきます。

総括

今回の調査を通して、実践女子大学生は財布を平均して1・2個所持しており、サイズは持ち運びやすい二つ折りや三つ折りの財布が好まれる傾向にありました。財布の値段は学年に比例しており高学年であると財布の値段も高い傾向にありました。そして財布の値段や給与に関係なく、デザイン・形重視で購入していました。また、インターネットが普及している現代においても、店に出向いて実際に手に取って財布を選ぶ傾向がありました。

Topics

- (1) 財布の所持数は1・2個が約8割
- (2) 財布の形態は、大き過ぎず、小さ過ぎない二つ折りや三つ折り財布が約7割
- (3) シンプルで落ち着いたデザインや色の財布が多い
- (4) 財布の値段は学年にし、高学年ほど高額になる
- (5) 財布を変えるタイミングは壊れたとき
- (6) 財布の値段は給与に関係なく、デザイン・形重視で購入する人が多い
- (7) 日頃使用している財布に愛着がある人は約8割
- (8) 普段所持している現金の金額は3,000円以上7,000円未満が過半数を占める
- (9) 「デパート・百貨店」「ショッピングセンター」が二大購入場所
- (10) 実際に手に取って財布を購入する人が多い

調査担当者

実践『ペルソナ』研究会 亀井栞・木下ちひろ・島根由衣・藤橋美香

調査概要

- ・調査対象：実践女子大生 1～4 年生
- ・調査方法：Google フォームによるインターネット調査
- ・調査期間：2021 年 6 月 4 日（月）～6 月 16 日（火）
- ・有効回答者数：258 名
- ・回答者の属性：1 年生 50.2（%）、2 年生 14.9（%）、3 年生 28.2（%）、4 年生 6.7（%）

調査結果

（1）財布の所持数は 1・2 個が約 8 割

自宅を含めて所持している財布の個数を調査したところ「1 個」と回答した人は 42%（109 人）、「2 個」と回答した人は 41%（107 人）でした。「3 個」は 13%（33 人）、「4 個以上」は 4%（9 人）と、所持個数が増えるごとに割合が減るという結果になりました（図 1）。このことから、1・2 個の割合が全体の 8 割を超えているため、財布の平均所持数は 1・2 個であることが考えられます。

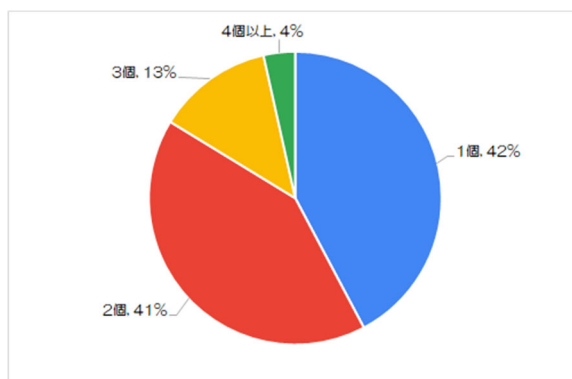


図 1. 財布の所持数 (N=258)

（2）財布の形態は、大き過ぎず、小さ過ぎない二つ折りや三つ折り財布が約 7 割

日頃最も使用している財布の形態を調査したところ、「二つ折り財布」と回答した人が 37%（95 人）と最も多く、次いで「三つ折り財布」と回答した人は 33%（86 人）でした。「長財布」と「ミニ財布」は、17%（43 人）と 12%（32 人）と、ともに 10% 台という結果となり、「コインケース」に至っては 1%（2 人）と少ない結果となりました（図 2）。このことから、財布の形態は、「長財布」よりは小さく、「ミニ財布」や「コインケース」よりは大きい、中間の大きさの「二つ折り財布」や「三つ折り財布」が使いやすく、好まれていることがわかりました。

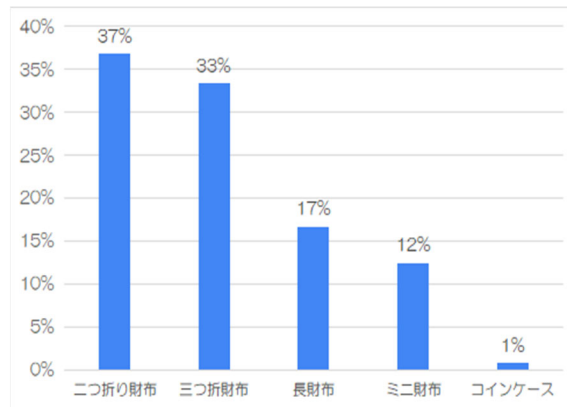


図 2. 財布の形態 (N=258)

(3) シンプルで落ち着いたデザインや色の財布が多い

日頃最も使用している財布のデザインを調査したところ、「無地」と回答した人が 70% (180 人) と最も多く、次いで「柄物」が 22% (58 人)、「キャラクター」が 5% (12 人) という結果となりました (図 3)。また、財布の色について調査したところ、「黒系」と回答した人が 26% (66 人) と最も多く、次いで「茶系」が 21% (53 人) と暗めの色が上位にあり、「緑系」・「黄系」・「青系」の明るめの色が下位に来る結果となりました (図 4)。

このことから、財布のデザイン・色は、「柄物」や「キャラクター」、「青系」や「黄系」などの派手なものより、「無地」で「黒系」・「茶系」のシンプルで落ち着いたデザインや色のものを好む傾向がみられ、飽きることなく、長期間使用できるものを購入していると考えられます。

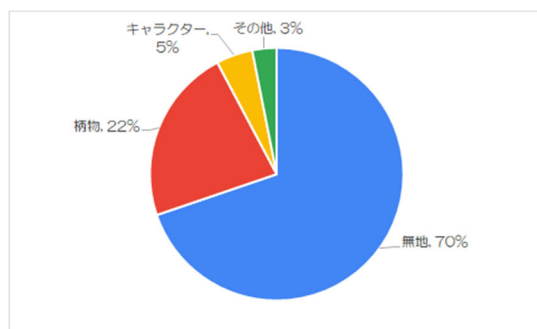


図 3. 財布のデザイン (N=258)

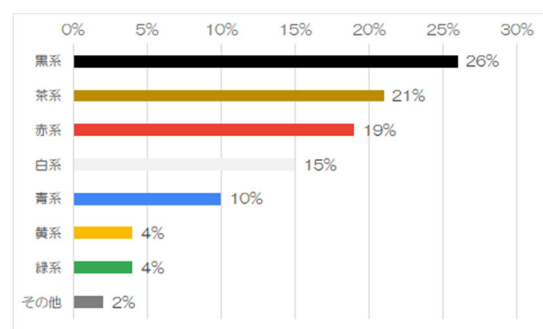


図 4. 財布の色 (N=258)

(4) 財布の値段は学年に比例し、高学年ほど高額になる

財布の値段と学年のデータを比較したところ、「10,000 円未満」が最も多かった学年が「2年生」の 63%、次いで「1年生」の 50%と低学年に多くみられ、そして「30,000 円以上」と回答した学年は 3・4年生が多く、学年が上がるほど財布にかかる値段が高くな

ることがわかりました。そして、人からもらったものを選択している学年が最も多かったのが1年生であり、学年が上がるごとに人数が減少していることがわかりました（図5）。

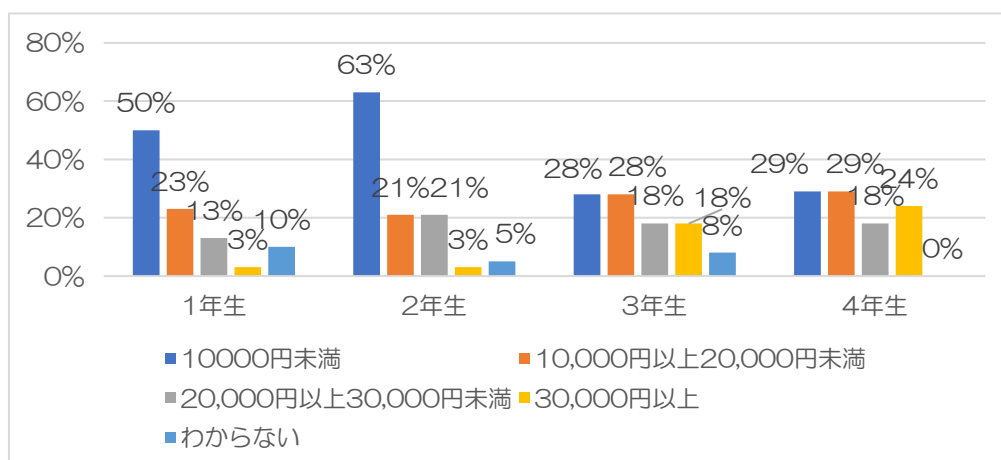


図5. 財布の値段と学年 (N=234)

(5) 財布を変えるタイミングは壊れたとき

財布を変えるタイミングを調査したところ「壊れたとき」と回答した人が39%（101人）と最も多く、次いで「気に入ったものを見つけたとき」と回答した人が29%（74人）、「飽きたと感じたとき」が15%（39人）、「プレゼントでもらったとき」が9%（24人）という回答結果となりました（図6）。

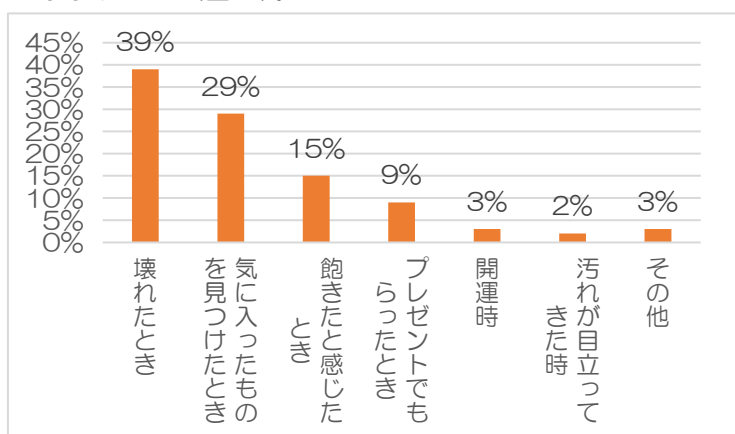


図6. 財布を変えるタイミング (N=258)

(6) 財布の値段は給与に関係なく、デザイン・形重視で購入する人が多い

財布を購入する際、重視する点を複数回答で質問したところ「デザインと形」を重視していると選択した人は231票と最も多く、次いで「機能」を重視している人が141票、「色味」を重視している人が135票という回答結果となりました。この結果から値段重視ではなく外見や機能を重視して購入する傾向がありました（図7）。

また、財布の値段と一カ月の平均給与の結果をクロス集計で分析したところ、一カ月の平

均給与が「50,000 円以上 60,000 円未満」の人は「30,000 円以上」の財布を使っている人が最も多いという結果になりました。さらに、給与に関わらず「10,000 円以上 20,000 円未満」の財布を使っている人が多いことがわかりました（図 8）。

以上のことから、日頃使用している財布の値段は一カ月の平均給与に左右されず、デザイン・形を重視して購入している傾向にあることが明らかになりました。

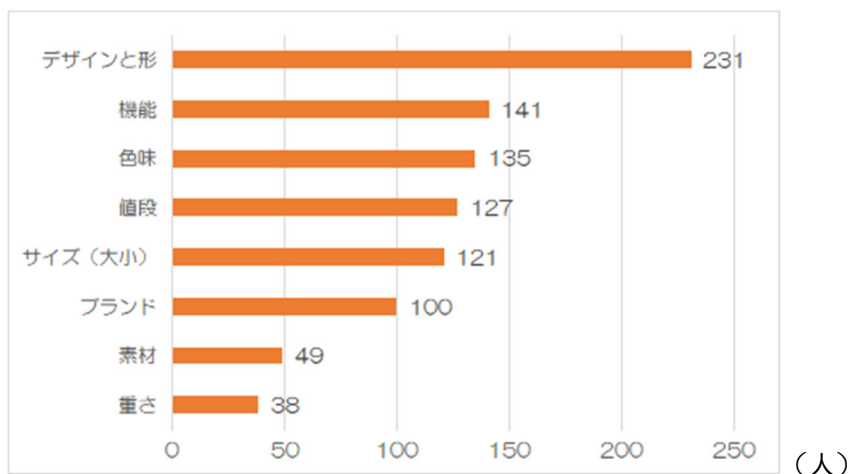


図 7. 財布を購入する際に重視する点 (MA、N=258)

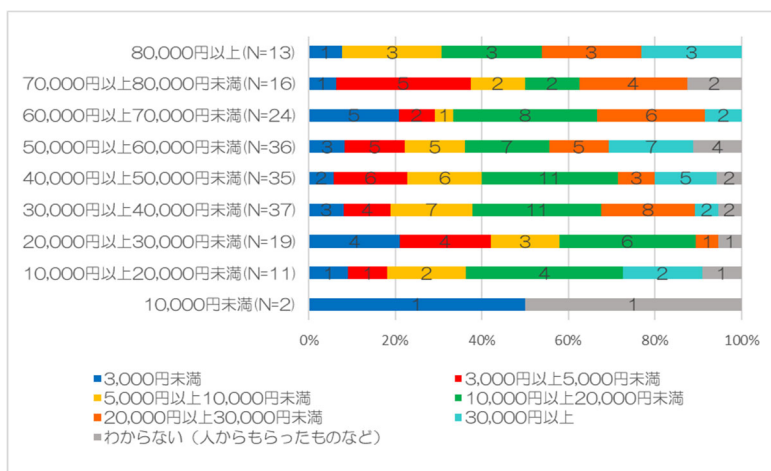


図 8. 平均給与と財布の値段 (N=193)

(7) 日頃使用している財布に愛着がある人は約 8 割

自分の財布に愛着があるかどうかについて、「とてもある」と回答した割合が 52%と最も多く、次に「ややある」が 34%、「どちらでもない」が 9%でした（図 9）。この結果から、「とてもある」と「ややある」を見ていくと、約 8 割の人が日頃使用している財布に対して愛着を持っていることがわかりました。

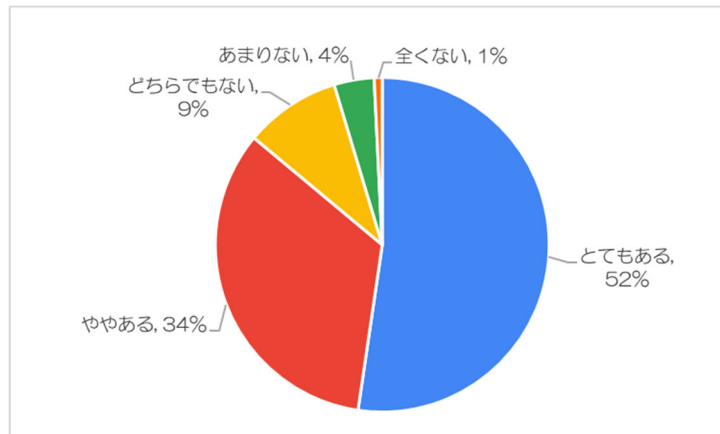


図9. 財布の愛着度 (N=258)

(8) 普段所持している現金の金額は 3,000 円以上 7,000 円未満が約過半数を占める

普段所持している現金の平均金額は「3,000 円以上 5,000 円未満」が最も多く 95 人 (37%) いることが明らかになりました。次いで「5,000 円以上 7,000 円未満」が 62 人 (24%)、「1,000 円以上 3,000 円未満」と「1,000 円以上 3,000 円未満」が 35 人 (14%) という回答結果となりました (図 10)。「1,000 円未満」が 6 人 (2%) と「1,000 円以上 3,000 円未満」が 35 人 (14%) と所持している金額が少ない人がいる要因として近年広まりつつあるキャッシュレス化が考えられます。

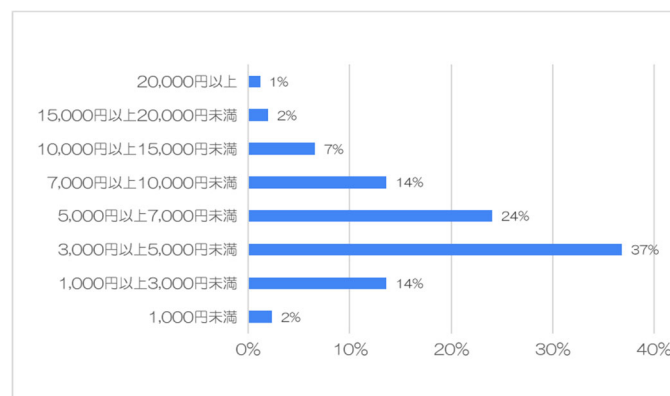


図 10. 普段所持している現金の金額 (N=258)

(9) 「デパート・百貨店」「ショッピングセンター」が二大購入場所

財布を購入する場所について聞いたところ、伊勢丹、高島屋、小田急、京王などの「デパート・百貨店」の 84 人と、ルミネ、マルイ、パルコなどの「ショッピングセンター」の 83 人が 1 人差で、圧倒的に多い結果となりました。次いで、LOFT や東急ハンズなどの「雑貨屋」42 人、「ネットショップ」が 32 人、「アウトレット」が 10 人、「雑誌の付録」が 1 人という結果でした。また、「その他」の回答として「アーティストのグッズ」、「ブラン

ドの直営店」、「洋服屋」があげられました。また、「その時によって異なる」との回答も見受けられました（図 11）。このことから、様々な財布を取り揃えている大型施設で、自分の好みに合う財布を購入する傾向にあることがわかりました。

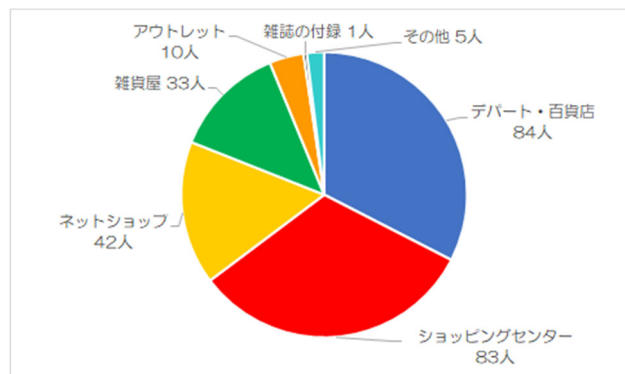


図 11. 財布の購入場所 (N=258)

(10) 実際に手に取って財布を購入する人が多い

財布を購入する際に参考にするものについて複数回答で聞いたところ、「店頭」と回答した人が 57% (147 人) と最も多く、次いで「Instagram」と回答した人が 38% (98 人)、「インターネット」と回答した人が 33.3% (86 人) とそれぞれ 3 割を占める結果となりました。「Twitter」、「雑誌」は少なく、それぞれ 5% 以下となりました。このことから、財布は常日ごろ持ち歩くものであるため、実際に手に取って選ぶ人が多いことがわかりました。そして、トレンドの発信媒体である Instagram やインターネットで情報収集をする人が多い反面、Twitter 離れや紙離れが加速しているとも考えられます（図 12）。

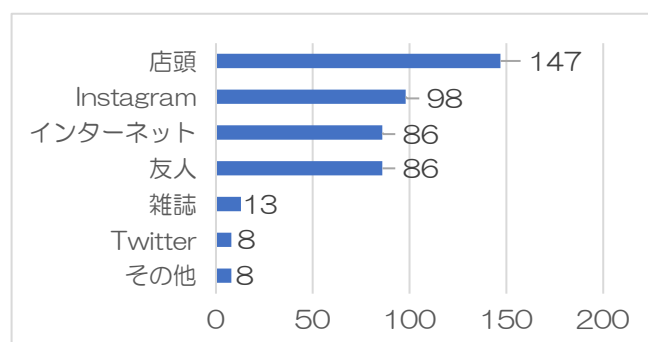


図 12. 財布を購入する際に参考にするもの (MA、N=258)

考察

今回の調査から、女子大生はデザインや色が「シンプル」で手軽に持ち運べるような財布を好む人が多いことがわかりました。また、半数以上の人が財布を自宅も含めて2個以上所持しており、用途に合わせて多数の財布を使用することや財布を買い替えても捨てずに所持する傾向があるのではないかと考えられます。財布を購入する決めてとして、最も多かった回答は「デザイン・形」であり、財布の値段やそれぞれの給与の大小にかかわらず、見た目を重視して購入されていることがわかりました。

デザインは半数以上が「無地」と回答し、シンプルなデザインが好まれる傾向にありました。色は「黒系」や「茶系」といった落ち着いた色を選ぶ人が半数以上でしたが、「赤系」や「青系」、「その他」ではシルバーなどといった明るい色を選ぶ人もみられました。このことから、飽きることなく長期間財布を使用し続けることを優先する人や、好きな色を優先する人など、購入する際の優先順位によって異なるのではないかと考えられます。

購入する際に重視する点は「デザイン・形」や「機能」の回答が最も多く、「値段」は重視する点にはあまり影響していないことがわかりました。また、1ヶ月の平均給与と財布の値段は、給与が高い人ほど高価な財布を使用しているという予想に反して、1ヶ月の平均給与の大小にかかわらず「10,000円以上20,000円未満」の財布を購入している人が多いことがわかりました。このことから、女子大生は給与を財布ではなく他のものに使用していることが考えられます。

財布を変えるタイミングは「壊れたとき」と回答している人が最も多いことから、財布は壊れるまで使い続ける人が多い傾向にあることがわかりました。また、「プレゼントでもらったとき」と回答する人の傾向として卒業式や入学式、誕生日といった記念日の際にプレゼントとして貰うことが多いと考えられます。「壊れたとき」と「プレゼントで貰ったとき」この2つの回答を踏まえると、プレゼントとしてもらうからこそ壊れるまで使い続ける人が多いことが考えられます。

最後に、購入場所は「デパート・百貨店」と「ショッピングセンター」という回答が最も多く、購入の際に参考にするものは「店頭」が最も多いことから、買い物がオンライン化している状況でも、財布は実際に手に取り気に入った物を購入したいと考えている人が多いのではないかと考えられます。

以上のことから、女子大生は流行に流されず、自分の考える優先順位を持ちそれに合わせて購入していることがわかりました。そしてインターネットが普及している現代にも関わらずオンラインで購入する人が少なく、店に出向き手に取って財布を選ぶ傾向が多いことがわかりました。財布は常日頃持ち歩くものであるため、今後も店舗での購入が好まれると考えられます。